

桜船会だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 54 号

発行日 2025.6.8

発行者 桜 船 会

発行責任者 木村允紀



「百合」～袋井市可睡ゆりの園にて～

提供 萩原 大義氏（会員）

桜船会行事の軌跡：桜船会・行事班長 12 年を終えて

いきいきライフ：「私は見た」

いきいきライフ：映画は楽し

いきいきライフ：野菜作りの楽しみ：長芋

行事報告：2024 年度秋の懇親会報告

行事報告：2024 年度春の屋外行事報告

表紙写真：趣味と表紙の「百合」

活動報告：ハイキング同好会報告

会員動向・編集後記

富山 勝己

大澤 隆司

山崎 広義

登尾 洋一

幹事 小玉 繁

幹事 田口 彰一

萩原 大義

富山 勝己

事務局・編集班

商研から P 研を経て 1995 年に設立された情報総研の所属となり 2004 年に定年退職、関連会社に移り 2007 年に桜船会に入会しました。2009 年 65 歳で関連会社も退職した時に、桜船会役員に誘われて行事班になりました。2012 年、萩原会長の下で行事班長を宗田さんから引継ぎ、「秋のバス旅行」、「秋の懇親会」、「春の屋外行事」などを企画・立案し、他の役員の協力も得ながら、出来るだけ多くの会員が楽しく参加頂ける行事になるように務めてきました。



昨年 3 月に 80 歳となり、居住地自治会の輪番制役員就任もあり、行事班長を退任させて頂きました。行事遂行にあたり、多大な協力を頂いた役員と会員、並びに会社、労組、関連会社の関係者に深謝いたします。

『秋のバス旅行』は、例年 9 月下旬に実施で、6 月度役員会で行き先等の検討を始め、関連会社の MD ライフにバスや昼食の手配などの協力を得て、7 月度には日程も決め、8 月度では開催案内状の会員への送付を行い、9 月度役員会では、当日の役割分担等を決めて実行してきました。

2020 年に計画した JAXA 筑波宇宙センターの団体見学は、9/28(月)の団体見学予約が取れ、バスと筑波山神社近くでの昼食手配も済んでいましたが、コロナ禍が終息せず残念ながら中止となりました。

実施年	月/日	『秋のバス旅行』行き先	参加者
2012	9/26-27	志賀高原と草津温泉(泊)	32 名
2013	9/26(木)	富士山麓一周&五合目	42 名
2014	9/24-25	那須岳中腹と那須温泉(泊)	37 名
2015	9/25(金)	富岡製糸場/群馬	47 名
2016	9/29-30	蓼科温泉(泊)と霧ヶ峰	28 名
2017	9/26(火)	マザー牧場と鋸山/千葉	33 名
2018	9/27-28	伊香保温泉(泊)と天神平	22 名
2019	9/26(木)	掛川北工場見学と日本平	43 名
2020 ~ 2022		コロナ禍で中止	
2023	9/28(木)	山中湖と御殿場高原ビール	22 名

『秋の懇親会』は、コロナ禍前は 11 月中旬の休日に情報総研・事務厚生棟 2F の食堂をお借りし、MD

ライフが会場の準備や飲食を用意いただけたので、9 月からの検討で十分でした。2023 年以降は、事務厚生棟が撤去されてしまったので、開催場所を鎌倉芸術館 3 階集会室としましたが、会場と飲食、設営の手配と準備が大変になりました。

『春の屋外行事』は、近隣の施設見学や公園などのハイキングを 3 月下旬に実施してきましたが、11~12 月から行先等の検討を始めて、1 月には役員有志で候補地の下見をして、ルート等を決めてきました。

実施年	月/日	『春の屋外行事』行き先	参加者
2013	2/28(木)	湯河原幕山公園の観梅	36 名
2014	3/25(火)	玉縄城址と楽友で会食	43 名
2015	3/26(木)	横浜港クルーズ	59 名
2016	3/28(月)	根岸公園から三溪園散策	38 名
2017	3/28(火)	麒麟ビール横浜工場	45 名
2018	3/28(水)	JAXA(宇宙航空研)相模原	52 名
2019	3/29(金)	アサヒビール神奈川工場	31 名
2020 ~ 2022		コロナ禍で中止	
2023	3/22(水)	大船フラワーセンタ	32 名
2024	3/26(火)	湘南平と花菜ガーデン	30 名

2024 年 3 月の湘南平と花菜ガーデンは、バスをチャーターして湘南平からの相模湾と白雪の富士山、満開の桜を見て頂きたかったのですが、強風・大雨、予想以上の低温で残念でした。



2017 年 3 月 28 日 キリンビール横浜工場見学

これからもハイキングなど適度な運動と頭の体操で健康に留意して、元気で桜船会の活動に参加できるように努力していく所存です。

2023年3月に退職し、気ままに写真を撮ったり、駄文を綴ったりして過ごしている。昔撮りためた写真を、最近フォトブックにしてみた。当時は小型のデジカメを持ち歩き、事有る毎にシャッターを切ったものだ。私はこれを眺めながらウイスキーを飲んでいる。

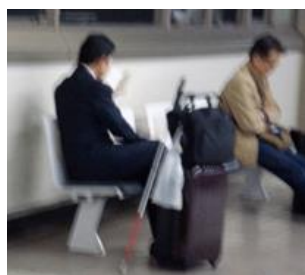


フォトブック

しかし私が撮るこのような写真は人にご理解いただけない。私が何故そこでシャッターを切ったのか、「私は見た」事件に関して、少しご説明してみようと思う。何かを感じていただければ幸いだ。

①「ホームにて」

私がこのフォトブックを作ろうと思った切っ掛けはこの写真だ。ピンボケだが貴重な一枚だ。小田原駅の新幹線ホームで、白い杖をついた紳士が前を歩いていた。ベンチに荷物を置きホームの売店でビールとつまみを買った。目が不自由でも仕事終わりにビールを飲んで悪い訳はない。ベンチに戻り、つまみを開けビールを飲み始めた。暫くしてこの紳士はカバンから本を出し読み始めた。おかしいだろ！今まで白い杖をついて歩いていたのだから。こんな話を誰かにしても、きっと信じてはもらえない。私は慌ててカメラを出し、気付かれない様遠くから写真を撮った。エビデンスは重要である。その後こだま号がホームに到着すると、彼はビール、カバンと本を持ち、白い杖を小脇に抱え、小走りでドアに向った。



白杖の紳士

②「中国のニーハオトイレ」

中国のニーハオトイレは知っていたが、湖北省出張の際、トイレに入って強い違和感を覚えた。はじめ違和感の原因がわからなかった。それは壁のない洋式のニーハオトイレだった。右に小便器も見える。ピンボケだが写真に収めておいて良かった。今ではお気に入りの一枚だ。



湖北省のトイレ

③「学会講演会の会場にて」

ある学会の講演会会場で、チョットおかしな奴が

隣に座った。高々2時間の講演なのに、机の上にビックスドロップが2種類3箱、飲み物3本と奥にはコーヒーマー。更には色とりどりのラインマーカーやら筆記具を綺麗に並べた。



隣の机

ちょっと危なそうな感じ。これは写真に撮っておかなくてはと思い、度胸を決めてシャッターを押した。当時はスマホでは無くデジカメで撮るのだから、間違えた振りなど出来ない。きっと私が何を感じたのかおわかり頂けると思う。

④「目を疑った話」

通勤の国道が拡幅工事をしていた。象や鹿、カエルなど動物をモチーフにしたガードレールを「アニマルガード」と呼ぶらしい。或る日カエルゾーンを走っていると、1匹だけウインクしていた。見間違えだとは思った。その後暫くしてそれを見つけた。1匹だけ確かにウインクしているのだ。そして写真を撮った。しかし消してしまったのか、今は見つからない。信じてもらえないかも知れないが本当の話なのだ。誰かが私の様に気付く事を期待して、手の込んだレアものを入れておいたのだろうか？ やはりエビデンスは重要だと後悔している。



アニマルガード

⑤「悲しい照明器具」

私は究極の可視光変換効率を求め、蛍光ランプを設計して来た。そんな私は、この様な発光効率を無視した照明器具を見ると悲しくなる。



悲しい照明器具

私の撮る写真は、写真愛好家の皆様にはご理解頂けない。まあ趣味というものは、自分が楽しければ良いのであろう。現在私は、キャノンのフラッグシップモデル EOS 1DX MARK II で、この様な写真を撮り続けている。何と贅沢な趣味だろうか。



寅さんでお馴染みの「男はつらいよ」シリーズの撮影が行われた松竹大船撮影所は残念ながら 2000 年に閉鎖されました。松竹は大谷竹次郎と松次郎の兄弟が設立した松竹(まつたけ) 合資会社がもとなり 1937 年に現在の呼称の松竹(しょうちく) 株式会社となりました。

私が友人同士で初めて映画館に入ったのは昭和 30 年代中頃(1960 年代初期)で中学生の時でした。そこから始まり高校生の頃からよく見に行きました。

当時、横浜の映画館は横浜駅周辺よりも伊勢佐木町界限に沢山あり、洋画専門館は伊勢佐木町 4 丁目の横浜ピカデリーや馬車道にあった東宝会館内の封切館や下位の二番館、三番館が存在、邦画も 5 社(松竹、東映、日活、大映、東宝) 全部の系列館がありました。私は洋画ファンだったので洋画専門館ばかりに行きましたが、封切館に通う財力はなかったのもつばら 2 本立て、或いは 3 本立ての〇〇名画座と称する割安な映画館を利用しました。映画は殆どが上映時間 100 分程度であり、3 本立てだと昼入場して出るのは夕暮れ時になり、混雑して立ち見もしばしば、さらに煙草の煙も少なからずありました。映画館の所在地は不思議と勘で探し当てる事が出来、目的の映画館にたどり着けなかった記憶はありません。

新作や話題作などの映画情報は、幸いにも高校の図書館にあった「キネマ旬報」の紹介と評論記事から得ていました。また各映画館での上映スケジュールは、週末近くなると新聞の夕刊に掲載されていたのでこれを利用しました。まだビデオやネットが無い時代だったのでとにかく、見たい映画はその上映時に実際に映画館に行かないと二度と見る事が出来ないという緊張感ある趣味でした。

映画産業の状況

第二次世界大戦の終了から数年経過した 1950 年代に入ると日本映画界も完全に復興し観客は急増しました。そして邦画、洋画を合わせた年間観客数が 1 億人を突破したのは 1957~1960 年でした。しかしこれをピークに急減し 1970 年にはピーク時の 1/4 の約 2500 万人になり、その後も緩やかに減少し 2020 年は約 1000 万人となりました。私が通っていた時期は映画が最盛期から急激に減少する変動期でした。

邦画は 5 社体制が崩壊しつつあった時代で、現在では日活、大映等は消滅しました。



洋画は主に米国、仏、伊製が輸入上映されていました。主に 1950 年代の名作洋画が「リバイバル上映」された時期と

私が映画ファンになった時期とが重なり、1950 年代と 1960 年代の名作とを見る事ができたことは幸運でした。このような経験から私の興味はどうしても 1960 年代を中心とし、1950,60,70 年代の映画になりました。そして 1980 年頃を過ぎると映画熱が冷めて減りに映画館に行かなくなりました。

懐かしの名画との再会

近年で最も大規模な名作のリバイバル上映活動は 2010 年から始まった「第一回午前十時の映画祭」です。有名な洋画作品を全国 25 館で 1 年間に 50 作品を各 1 週間上映する企画でした。この企画は翌年から毎年続き 2024 年度も「午前十時の映画祭 14」として 14 回目の上映活動が行われました。

これとは別に往年の名作を再び見る機会がもう一つ増えました。それは鎌倉市川喜多映画記念館です。この記念館は洋画の輸入上映活動に貢献した川喜多長政夫妻の旧宅跡に先程の「午前十時の映画祭」と同じ 2010 年に開館し、約 50 席での上映と映画ポスター等の資料が展示されています。ここは洋画だけでなく邦画名作の上映もあり邦画を見ていなかった私も黒澤明監督作品等を新たに見る機会を得ました。

私はこの映画祭の企画をきっかけに再び映画への思いが戻りました。自分が 10 代~30 代頃に感動した映画を再び見る機会を得てとても幸せです。



川喜多映画記念館

著名な絵画などを見る時はその作品についての解説で興味が増します。映画も制作の苦心や裏話などの逸話を見聞きすると作品に対する見方が深まり、さらに面白くなるので作品解説を頼りにしています。機会があれば好みの映画や美人女優を紹介したい。

長年、家庭菜園を楽しんでいます、その中でもなぜか熱が入っているのが長芋です。写真は1mです。



すりおろして生玉子、ワサビ、醤油を入れて、かき混ぜ、きざみ海苔をまぶして、温かご飯にかけ食べるのが大好きです。たくさんの料理法が紹介されていますがこれにこだわっています。美味しいですね。

毎年 15cm 位の種芋を 12 本ほど購入しています。長芋は連作に不向きとされていますが、15 年ぐらい同じ場所で栽培していても特に異常ありません。

長芋畑は元桑畑だった所で、30～40cm 掘ると、固い赤土が有り、その下は砂利や砕かれた石が混ざった固い土になっています。普通に野菜等を作るのには何も問題有りません。

最初はそのままの畑に種芋を植えたところ固い赤土に当たり無残にもボコボコの芋になりました。

雑誌等でお薦めされている、筒や雨どいを買って試しましたが、思っていたほど簡単ではなく、植付けや収穫時に手間がかかり面倒なので 1 回で止めてしまいました。

ここから真っ直ぐで長い長芋作りの楽しみが始まりました。まず 1.5m×2.5m 範囲の場所を決め、掘り始めましたが、スコップでは歯が立たないので、つるはしを使い 60cm 位の深さまで掘って、硬い赤土や石を取除き植付けました。するとその深さ以上成長し、その先端はやはりボコボコに。毎年さらに深く掘り進め、昨年は 1.2m の深さにしましたが、まだ先が固いところにめり込んでしまいました。

更に 20cm 深く掘り下げたので今年は 1.4m の深さで植付ける予定です。結果が楽しみです。

目標は 1.2m の真っ直ぐな長芋です。深くなると碎石混じりの固い粘土なので、やはりつるはしで掘り、都度フルイにかけ固い土や石を取除いて来ました。掘るのは一苦労ですが自分でも可笑しくなるぐらい熱心にやっています。止まりません。



昨年掘り出した長芋

芋掘りは 12 月に入ってからで、植付けた場所から少し離れた所から階段を作りながら掘下げた底まで掘り進め、真横から長芋を掘り採る形にしています。小さいシャベルで芋の位置を確認しながら慎重に土を取り除いていきます。折れたり、傷付けたりし難く作業がスムーズにできます。

掘り上げた土は周りに盛り上げて、寒さと風、雨、日光に晒しながら少しずつ穴に戻し、残り 30cm 位から腐葉土、堆肥、石灰を混ぜ込み 3 月中に平らにしてゆきます。これで植付け準備完了です。

寒さと風、雨、日光に晒すことで土がリセットでき、連作障害が防げているのかもしれませんが。多分！

種芋の植付けは 4 月初旬に行い、2m 位のネットを V 字に立て、ツルや葉が 50cm 位伸びてきたら追肥、水やりに気を配ります。ツルや葉がたくさん出る方が芋への養分供給が盛んになり太く長くなります。

★ここはプロの智恵★

『葉が枯れたら光合成が終了で、ツルを少し残しカットする。それから土の中で芋のひげ根が養分を吸収し、さらに成熟が進み、えぐみが消え良く締まり美味しさが増してゆきます。葉が枯れて 1 ケ月位してから、必要な分だけ収穫し、あとは畝に残したままにした方が良い』とあります。

土の表面は寒さで凍りますが地中の芋は大丈夫で、掘り上げて貯蔵するより品質が保たれます。当初は葉が枯れたら出来上がったと思い、すぐに掘り、食べたり保存していましたが、乾燥してシナシナになったり腐ってしまうものもありました。現在はプロの教えを守り継続しています。

毎年、夏の終わり頃指の太さ位の大きい蛾の幼虫が発生します。保護色なので発見が難しく、見過ごすと大変、葉をすっかり食べられてしまいます。落ちたフンを目印に必死に探し捕獲します。

右の写真は芋を掘り終えたところです。



1. 日時 2024 年 11 月 21 日（木）13:00～
2. 場所 鎌倉芸術館 3 階集会室
3. 参加者 29 名（当日 1 名欠席）
4. 会費 2000 円（ご家族とも）

桜船会の秋の懇親会が 11 月 21 日（木）に鎌倉芸術館 3 階の集会室に 29 名の会員の方が集まり開催されました。

全員集合した後、集合写真を撮影し、木村弘さんのご発声により乾杯が行われ懇親会へと進行していきました。会場には円卓が 5 テーブルセットされ各テーブル 6 名着席、宴会が始まりました。宴たけなわになりますと円卓を廻りながら懐かしい顔を見つけて、

お酌をしながら在職時の思い出や、年齢に直面する現在の様子、健康状態などに話がはずんで盃をかわす毎に大いに盛り上がっていました。遠方より参加された方もおり、旧交を深め会社勤務時の懐かしい思い出や趣味の話などに花を咲かせていました。

懇親会もあっという間に 2 時間が過ぎ、次回の再会を楽しみに終宴の時間となりました。終了後飲み足りない人は大船駅に向かう途中、駅前の商店街へと繰り出して再度飲み直す人もいました。

桜船会を始めとした飲む機会ではくれぐれも飲み過ぎないように気を付けて、またお会いできますようにご自愛下さい。



1. 実施内容：JAMSTEC『地球情報館』

(横浜研究所) の見学と「居酒屋かもん」昼食会

2. 実施日：2025 年 3 月 13 日 (木) 11:15~14:00

3. 会 費：1,000 円 (会員、ご家族とも同額)

4. 参加者：28 名 (内ご家族 3 名)

5. 行事の実施内容報告

見学会当日は、3 月半ばとしては暖かく快晴で、JR 新杉田駅から JAMSTEC『地球情報館』(横浜研究所) まで約 20 分かけて徒歩で移動しました。

JAMSTEC は、国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology) の略称で、活動としては、有人潜水調査船「しんかい 6500」による深海生物の研究、地球深部探査船「ちきゅう」による地球内部の調査、スーパーコンピューターを使って 100 年後の地球環境の予測などを行っています。

今回見学した横浜研究所の『地球情報館』では、

これらの成果を模型や映像で見ることができます。

展示をひと通り見学した後、大スクリーンでの映像説明を視聴しました。視聴したどの映像説明も興味深く、見学時間が足りなくなりそうでした。

JAMSTEC『地球情報館』の見学後は、再び徒歩で新杉田プロムナード内にある「居酒屋かもん」での昼食会に移動しました。この日から 10 日後には横浜に桜の開花宣言が出るのですが、途中の桜はまだ固いつぼみのままでした。

「居酒屋かもん」昼食会は、2 階の個室で、「刺身と唐揚げ定食」を食べ、生ビールを飲みながら皆さんで歓談し、新入会員の方とも交流ができ、有意義で楽しい会となりました。

最後に木村会長のご挨拶後、散会となりました。

今回の春の行事は、知的好奇心と美味しい食事、適度な運動ができたと思いますので、今後も多くの方が参加できる行事を提案していきたいと思います。



「居酒屋かもん」昼食会

23 年前の退社時、皆様からいただいた送別金でこれからの趣味にとノートパソコンと一眼レフカメラを購入しました。

趣味のパソコンは、退社した頃からスタートしています。当時はパソコン環境が国家的事業として普及活動期で、各市町村が競ってパソコン講座を開催しておりました。

当時の小生は、パソコン知識に疎かったので、その時流に乗ることを決意し、講座を受講しワード、エクセル、メール、インターネット等を修得しました。講座終了後は、受講者 20 名とパソコンサークルを立ち上げ、代表としてパソコン知識の向上を目指しました。23 年後の現在も継続しております。

その成果はホームページ「和(なごやか)の箱」(サークル活動と写真)、「渋沢ミニバスケットボールクラブ」(活動状況)等を開設し、その維持管理の日々です。今思うとパソコン時代到来の時流に乗れたことを喜ぶと共に良かったと感じております。

趣味の写真は、パソコンサークル活動の中で行っておりました。カメラは、フィルムからデジタルへと大進化し、現像、焼き付け等の工程がなく撮影状態をその場で確認、編集が出来、メモ리카ードに保存が可能で非常に便利になりました。デジカメが全盛期を迎え、その時流に乗るためニコンのデジタル一眼レフカメラを再購入しました。サークル活動の中では、撮影テクニック向上を目指し、外部講師を招き、「デジカメ講座」や「デジカメ撮影会」を開催しました。撮影会は、富士見高原ゆりの里や掛川市加茂菖蒲園等、他にも数か所、旅行を兼ねて訪れ、楽しみながら細かいテクニックの指導をいただきました。対象物は景色、花、木等の静物を主体に撮影を始めました。鳥、動物、魚等の動く物は、難しいが挑戦を続けております。

花の撮影は、「花」自身が姿を美しく見せたい、見て貰いたい、撮影して貰いたいと訴えているようです。撮る方には、その姿を更に美しく表現するためのテクニック(シャッター速度、絞り、遠近等)及び工夫(構図、色あい、ぼかし、立体感、主役、脇役、ピント位置等)が求められています。

写真は撮る人の感性、経験等が大きく左右することとは否めないが、望遠レンズの上手な使い方により深みのある写真が創出できることを実感しました。

表紙写真の「百合」は、「袋井市可睡ゆりの園」で撮影したもので、純白で気品に溢れて咲く姿が表現出来ていると思っております。如何ですか？



第 33 回：葉山国際村から大楠山 9 名

2024 年 11 月 14 日(木)、三浦半島で一番高い大楠山山頂 241m で、持ち寄ったおでんを温め、熱燗と梅酒やカリン酒を楽しみました。

第 34 回：大磯・鳴立庵と城山公園 5 名

2024 年 12 月 12 日(木)、鳴立庵、明治記念公園を見た後、城山公園に到着。もみじが見頃でした。

第 35 回：戸塚七福神巡り 9 名

2025 年 1 月 9 日(木)、戸塚駅の南北に点在する寺院の七福神、全行程 8.3km を 3.5 時間で巡り、駅前に戻り、「てんかつ」とビールで結願を祝いました。



事務局

会員動向・編集後記

■会員動向(敬称略)(2024.10.1～2025.3.31)

- ・会員数：153 名(前回ご報告から 7 名減員)
 - ・入会者：0 名
 - ・退会者：5 名 石崎忠男 石崎泰寛 吉川浩
清水和崇 和田義章
 - ・物故会員：2 名 宮田裕行 森義昭
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■編集後記

第 54 号も無事に発刊することができました。寄稿いただいた皆さまありがとうございます。次号も会員の皆さまからの寄稿をお待ちしています。

第 45 号から表紙を趣味の作品展示会に出展いただいた方々の作品で構成してきましたが、本号で全員掲載し終わりました。ご協力ありがとうございました。次号以降の表紙の構成にご期待下さい。

■桜船会 URL <http://www.ousenkai2013.com/>

編集責任者：皆川良司

印刷所：(株)さんこうどう

